

■ 高取町与楽古墳群周辺地区まちづくり基本計画 ■

令和元年 6 月

1. 高取町与楽古墳群周辺地区まちづくり基本計画策定の背景・目的

(1) 基本計画策定の背景・目的

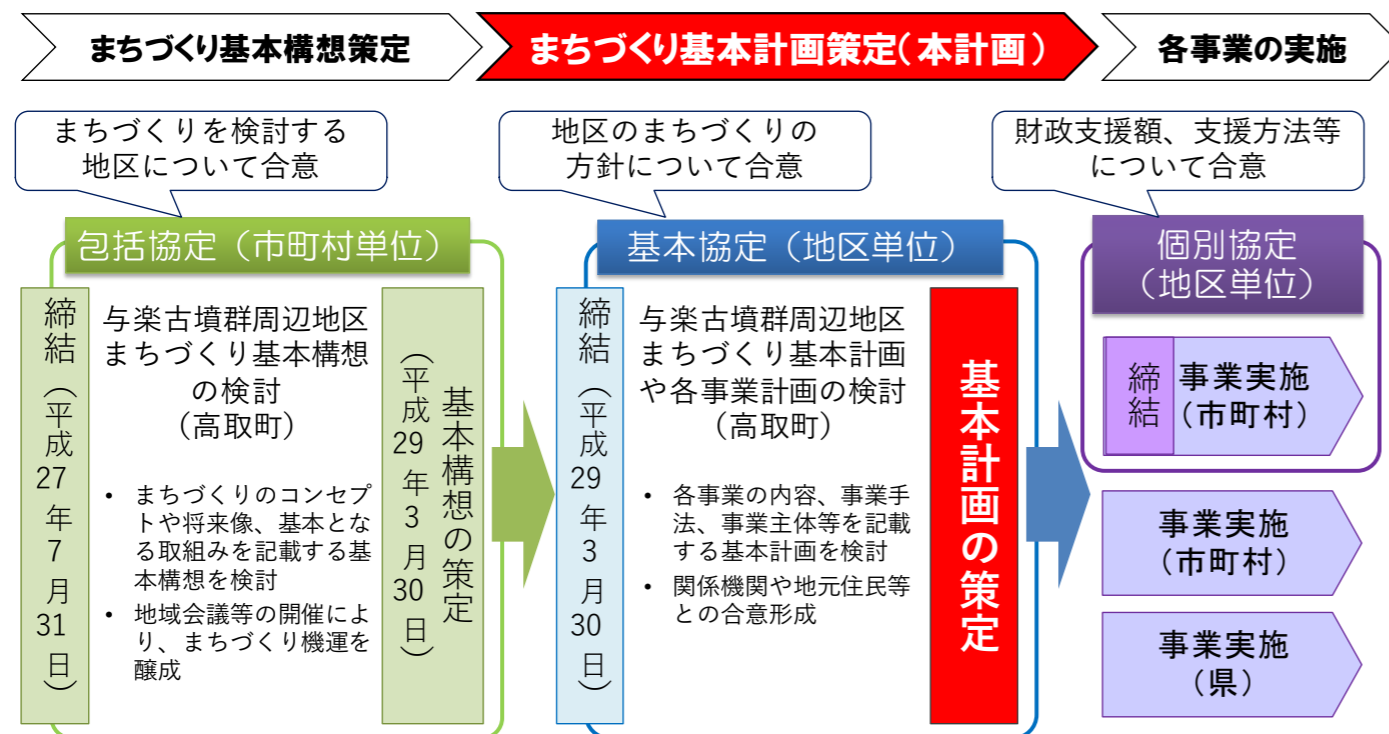
高取町と奈良県がまちづくりに係る取組に関して、平成27年7月31日付けで包括的な連携と協力に関する協定を締結、その後与楽古墳群周辺地区におけるまちづくりのコンセプトや将来像、基本となる取組を記載した構想を策定し、平成29年3月30日付けで県との基本協定を締結しました。それら経緯を踏まえ、一般の業務は、構想の実現に向けて取り組む事業について、事業名、事業内容、事業主体、事業スケジュール、事業効果（KPI）等を明確にし、体系的に整理することで、複数事業の事業間調整を図るとともに、幅広い関係者が相互に連携しながら、効率的、計画的に事業を展開できるようにすることを目的として「高取町与楽古墳群周辺地区まちづくり基本計画」を策定します。

なお、計画策定の根底には、住民が安心できる健康で快適な生活環境を実現しつつ、地域性を活かした賑わいのある住みよいまちづくりを進め、駅、病院、社寺、公園など、地域創生に資する拠点の特色に応じた機能の充実や強化を図るとともに、拠点間相互の連携を強め、県全体として総合力を発揮する都市形成の必要性があることに留意するものとします。

(2) 基本計画の位置づけ

まちづくり基本計画は、基本構想で定めたまちづくりの方針に対し、必要な事業内容・事業主体等を地域の皆さんのご意見をいただきながら作成したものです。この計画を基本として、地域住民・農業従事者と行政が協働して、各種事業を進めていきます。

【本地区における連携協定の流れ】

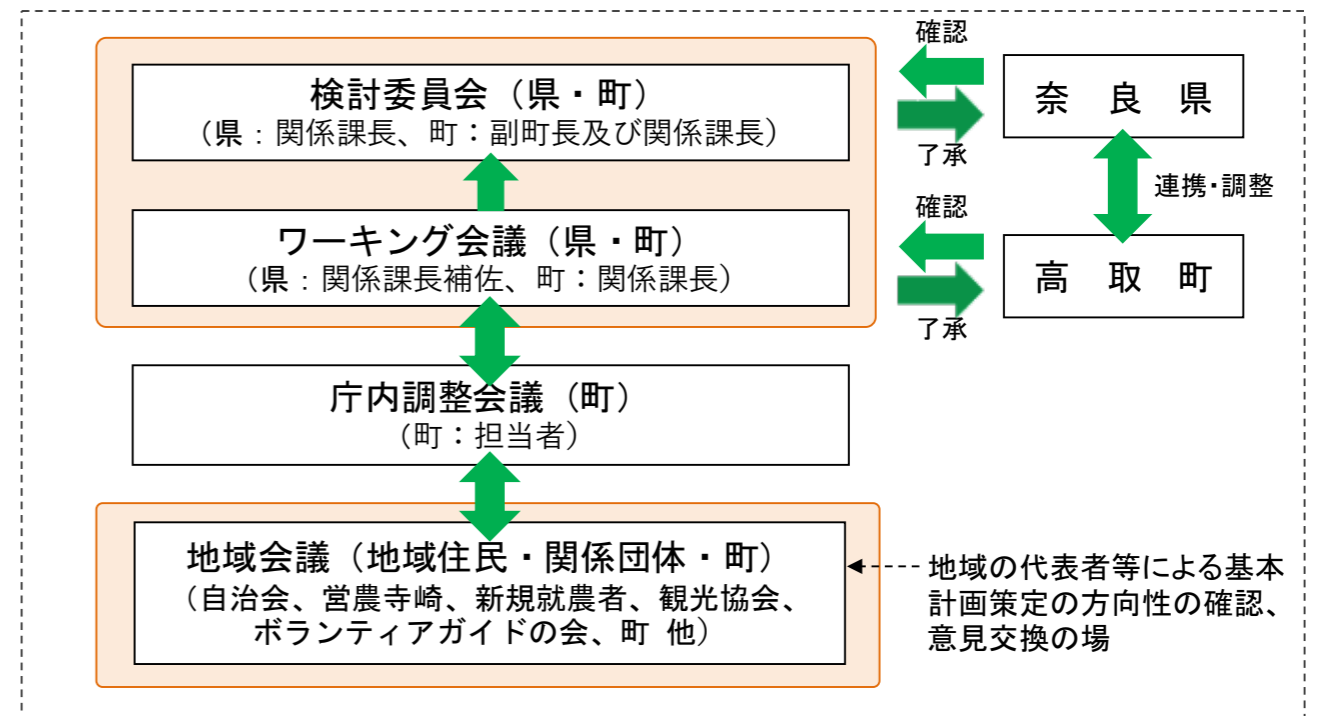


(3) 基本計画の運用方針

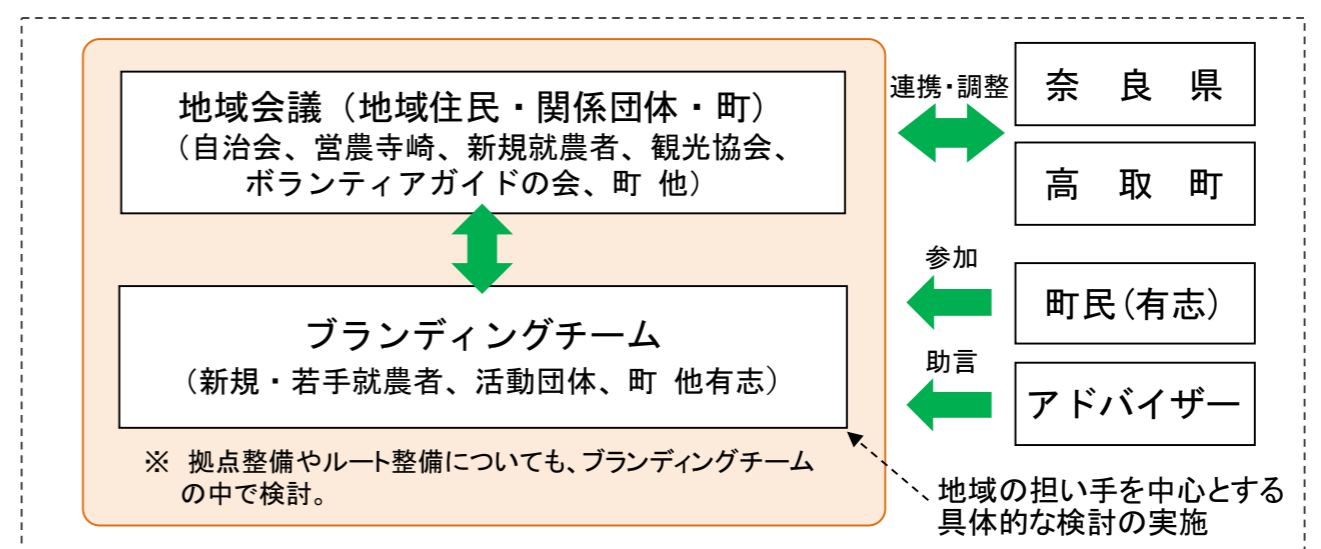
まちづくり基本計画を推進するため、地域の担い手を中心とする有志によるブランディングチームを組織し、具体的な検討を進めることとし、必要に応じて、適宜計画内容を見直します。

【基本計画運用のための組織体制】

<平成29年度>



<平成30年度以降>



(4) 基本計画で定める内容及びエリア

＜地区の課題＞
（基本構想）

農業の課題

- 観光客や交流人口増加と併せて、高取の農をPR
- 地域と観光客をつなぐ拠点の形成
- 多様な担い手の育成・確保
- 良好な田園景観の維持
- 高取農ブランドのイメージ構築
- 魅力ある農業経営の確立

与楽古墳群活用の課題

- 整備される与楽古墳群を活かして明日香地域からの誘客
- 地域資源を活かした地域の誇りの醸成
- 奈良県、明日香地域を訪れる観光客への与楽古墳群のPR
- 明日香地域からの案内情報の充実
- 地域の運営・維持管理体制の構築
- 多様な世代が利用できるアクセス手段の構築

＜まちづくりのコンセプト＞
（基本構想）

歴史と「農」のふれあう癒しのまちづくり

＜まちづくりの方針＞

（基本構想）

（農業振興のモデル地区）

高取農業の
魅力化・ブランド化

（新たな資源の活用）

古墳を通じた
まち・地域の魅力化

新たな拠点の形成

農のブランド戦略の展開

農業経営の支援と地産地消の推進

新規就農者の支援体制構築

周辺農地活用等による
良好な田園景観の創出

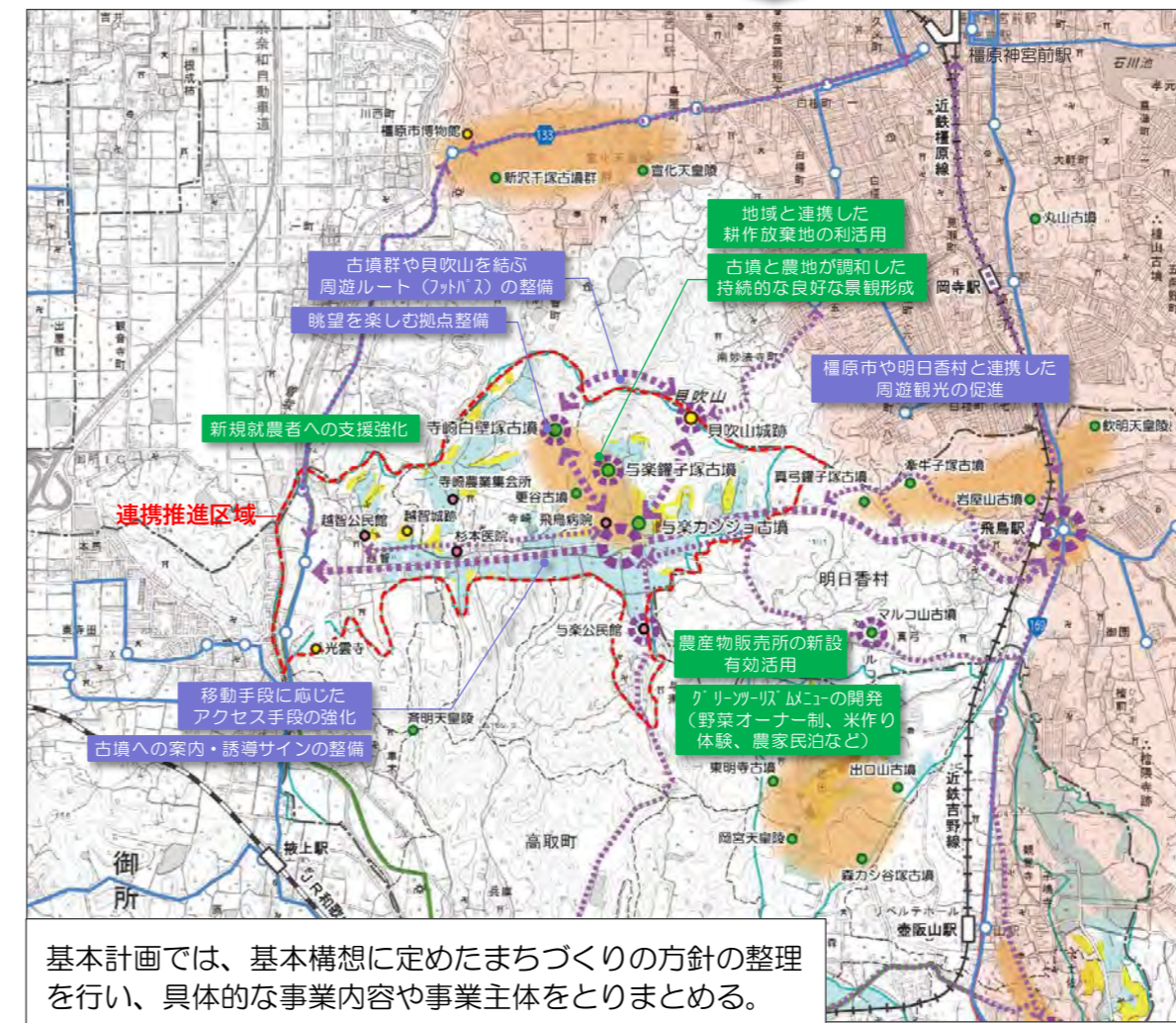
与楽古墳群のプロモーション

周遊観光の促進

案内情報の充実

地域の運営・維持管理体制の構築

＜基本計画で定める内容及びエリア＞



- 凡例
- 連携推進区域
 - 経路
 - バス路線
 - 農業振興地域
 - 田
 - 畑
 - 樹園地
 - 古墳
 - その他観光資源
 - 公共施設等
 - MICHIMO 走行可能エリア
 - 地域資源集積エリア
- ：高取農業の魅力化
■：地域の魅力化

- 【高取農業の魅力化全般】
- 営農組合や農業従事者の経営安定に向けた支援強化
 - 地産地消を推進するための町内への啓発や流通ルートの開拓
 - 特産品の開発
 - 高取町の農業のPR

- 【地域の魅力化全般】
- 古墳の周知、HPやパンフレット等による情報提供
 - 古墳を案内するツアーやガイド等の仕組みづくり
 - 地域の運営・維持管理体制の構築

(国土地理院の電子地形図(標準地図)を加工)

2. まちづくりを進めていく上で必要な事業内容・実施主体など

※本基本計画は、5年以内に完了または着手する具体的な取組に加え、それ以降の将来的な取組も含めて策定したものです。(5年経過毎に改訂予定)

(1) 高取農業の魅力化

「高取農業の魅力化」においては、町または県が事業主体となる以下の3事業を想定しています。

<高取農業の魅力化に関する事業>

事業名	事業主体	事業内容	H30~R4	R5~	事業手法	対象エリア			
						農業	古墳 周辺	周遊 ルート	
拠点形成事業	ハード	町	古墳周辺用地の買収	用地補償					
		町	拠点施設の整備	基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 除去・造成工事 → 建築工事				・歴史生き活き！史跡等 総合活用整備事業 ・農山漁村振興交付金	
	ソフト	町	事業手法の決定、運営支援等	事業手法の検討	運営組織の設置支援	試行運営の支援		・地方創生推進交付金	
		事業者	拠点施設の運営		運営組織の設置	試行運営 → 継続的運営			
	町	人材育成支援	人材育成支援				・地方創生推進交付金		
農のブランド戦略展開事業	ソフト	町	特産品の栽培・開発支援	特産品の栽培・開発支援				・地方創生推進交付金	
		農業者	特産品の栽培・開発	特産品の栽培・開発					
		町	特産品の販売促進イベントの開催			特産品の販売促進イベントの開催	継続的開催		
	町	町	ブランディングチームの立ち上げ	ブランディングチームの立ち上げ					
		町	農業全体に関わるブランドの具体的開発への取組支援	ブランド開発構想の検討 → ブランド開発への取組支援					
		町	高取農産物のキャッチコピー・ロゴデザインなどイメージ戦略の構築	イメージ戦略構想の検討					・地方創生推進交付金
		町	PR媒体の具体的展開	PR構想の検討 → PRツールの作成 → PRの実施			PRの継続的実施		
農業者等	農業者等	ブランディングチームへの参画	ブランディングチームへの参画						

事業名	事業主体	事業内容	H30~R4	R5~	事業手法	対象エリア		
						農業	古墳 周辺	周遊 ルート
ソフト	新規就農者支援事業	町	空き家と農地を一体で提供できる仕組みづくり	仕組みづくり → 仕組みの運用	継続的運用	・地方創生推進交付金	○	
		町	※1 グリーン人材の受け入れ制度の構築	制度の構築 → グリーン人材受け入れ制度の運用	継続的運用			
		農業者等	グリーン人材の派遣・受け入れ	グリーン人材の派遣・受け入れ				
		県	新規就農を目指す人材の受け入れ	研修生の受け入れ	継続的実施			
		県	新規就農者の就農後のフォローアップ	就農後フォローアップの実施	継続的実施			

(2) 古墳を通じたまち・地域の魅力化

「古墳を通じたまち・地域の魅力化」においては、町、飛鳥広域行政、または、住民が事業主体となる以下の3事業を想定しています。

＜古墳を通じたまち・地域の魅力化に関する事業＞

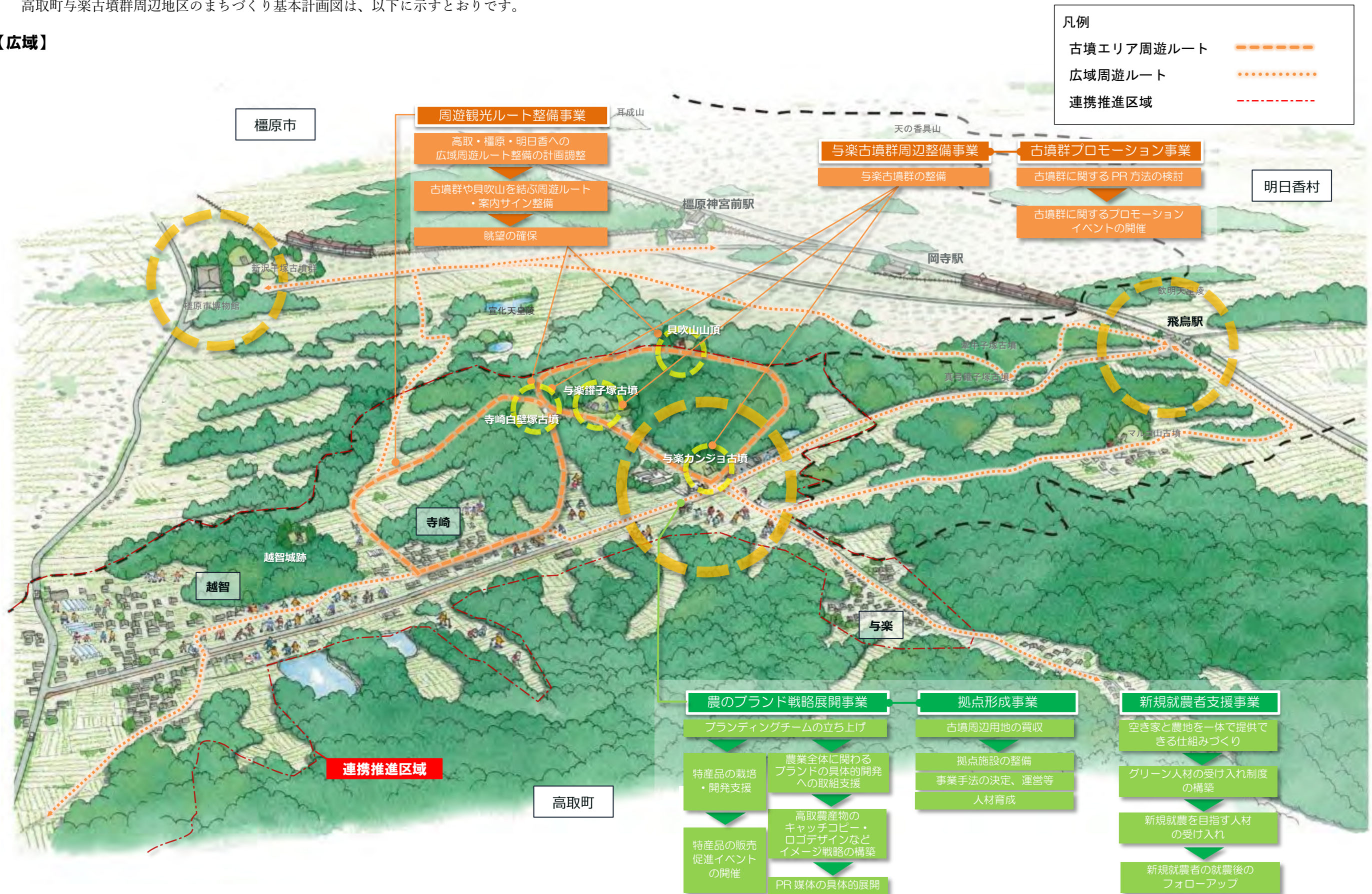
事業名	事業主体	事業内容	H30~R4	R5~	事業手法	対象エリア		
						農業	古墳 周辺	周遊 ルート
ハード	与楽古墳群 周辺整備事業	町	与楽古墳群の整備	与楽カンジヨ古墳調査・整備 → 寺崎白壁塚古墳調査・整備 → 与楽罐子塚古墳調査・整備 拠点施設整備	・歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業		○	
	周遊観光ルート 整備事業	飛鳥広域 行政事務 組合	高取・橿原・明日香への広域周遊ルート整備の計画調整	モデル ルート 計画				
		町	古墳群や貝吹山を結ぶ周遊ルート・案内サイン整備 眺望の確保	周遊ルート・案内サイン整備	工事	・地方創生推進交付金		○
ソフト	古墳群プロモーション事業	町	古墳群に関するPR方法の検討	PR方法の検討 → PR方法の検討	PR方法の検討	・地方創生推進交付金	○	
		町	古墳群に関するプロモーションイベントの開催	イベントの開催 → イベントの開催	イベントの開催 → 継続的実施			
		住民	古墳群に関するプロモーションイベント運営への参画	イベント運営への参画				

※1 : グリーン人材とは、新規就農者等の若手人材のことであり、新規就農者等が自身のライフスタイルに合わせて臨時的かつ短期的で軽易な作業を提供することにより、地域の活性化へ貢献する仕組みです。

3. 基本計画図

高取町与楽古墳群周辺地区のまちづくり基本計画図は、以下に示すとおりです。

【広域】



【地区内】



▲寺崎白壁塚古墳付近の眺望



▲貝吹山山頂



与楽古墳群整備事業
(寺崎白壁塚古墳：令和3年)
眺望の確保
(寺崎白壁塚古墳)

周遊ルート・案内サイン整備

眺望の確保(貝吹山)

与楽古墳群整備事業
(与楽罐子塚古墳：令和7年)



▲案内サインのイメージ ※1

橿原市方面
への広域ルート

明日香村方面
への広域ルート

周遊ルート・案内サイン整備

拠点形成事業

与楽古墳群整備事業
(与楽カンジョ古墳：平成30年)

明日香村方面
への広域ルート

古墳群プロモーション事業
(古墳周辺でのイベント開催)



▲与楽カンジョ古墳の整備イメージ ※2

凡例

周遊ルート(整備予定)	●●●●●▶
周遊ルート(既存活用)	●●●●●▶
2車線道	———
連携推進区域	- - - - -

- 地域全般に関する事業
- 農のブランド戦略展開事業
- 新規就農者支援事業



▲拠点形成のイメージ案



▲大和当帰を使用した特産品の例

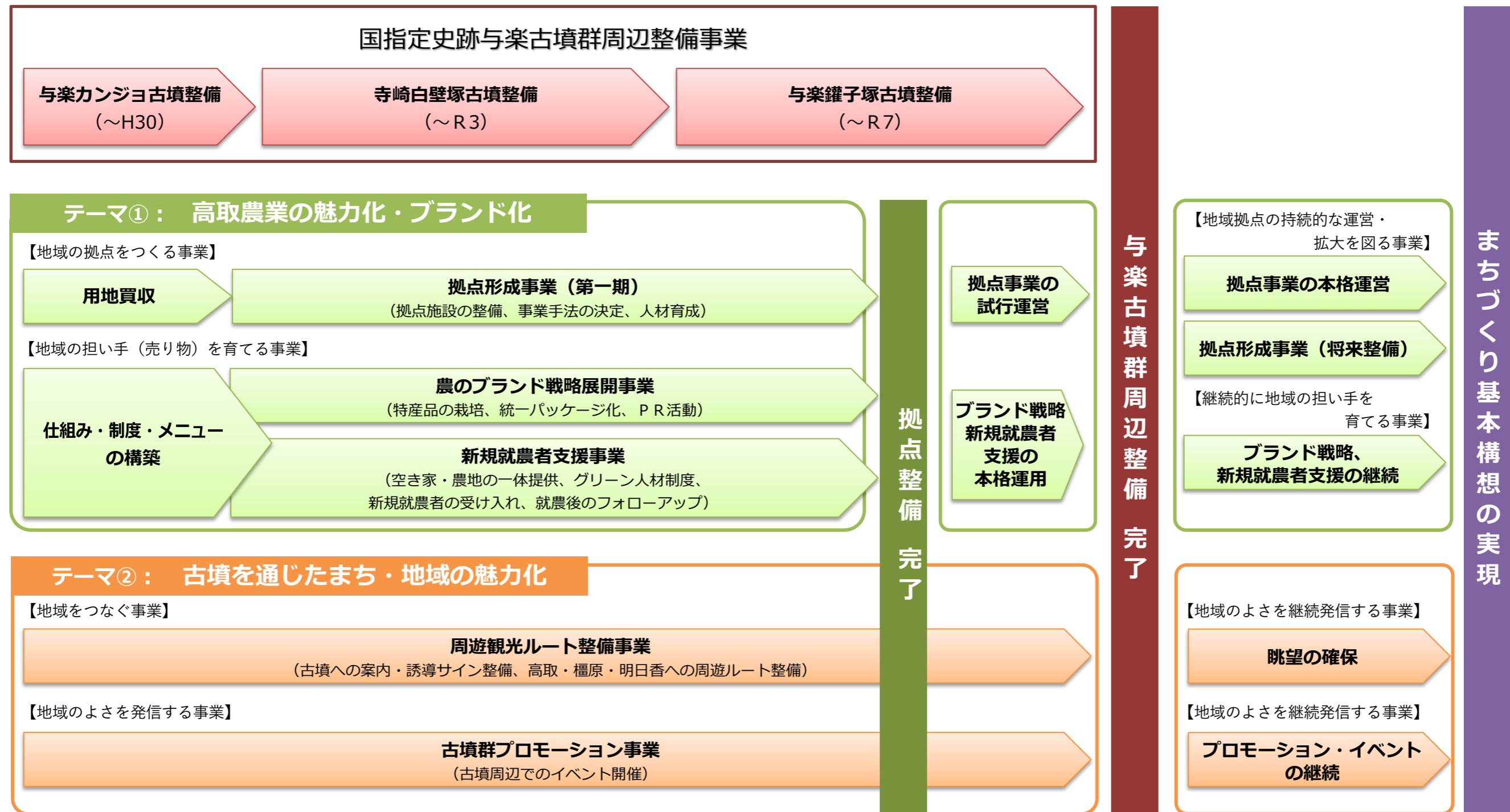
※1：飛鳥観光案内サイン整備計画(平成27年3月)
※2：国指定史跡与楽古墳群保存管理・整備計画(平成26年3月)

4. 事業推進に向けた取組

与楽古墳群周辺地区まちづくりの方針の実現に向けて、テーマ毎に整理した事業について、スケジュールやタイミングを明確にするとともに、各事業がどのような役割を果たしているかを意識し、地域住民、農業従事者、民間事業者、行政が協働して戦略的に取り組みます。

事業当初に仕組み・制度の構築・メニューの開発を中心に検討した上で、各事業展開を進めます。その際に、国指定史跡与楽古墳群周辺整備事業の実施状況に合わせて、効果的な事業推進を図ります。

■ 事業推進に向けた取組イメージ


まちづくり基本構想の実現

5. 基本構想の目標に対する事業効果(KPI)について

与楽古墳群周辺地区では、今後の運用面を鑑み、国勢調査や農林業センサス等の参照できるデータや、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」等関連計画で設定している事業効果評価指標（KPI）を参考に評価指標を抽出し、本地区における目標値を設定します。

■ 事業効果評価指標（KPI）の設定

指標分野	データの種類	現在値	目標値 (R4年度末)	現在値からの 増減	主な出典資料
人口	3地区人口	551人	560人	9人	住民基本台帳（12月末）
世帯数	3地区世帯数	221世帯	225世帯	4世帯	住民基本台帳（12月末）
農業	3地区農業従事者数	28人	32人	4人	2015年農林業センサス
農業	3地区耕作放棄地面積	873a	823a	△50a	2015年農林業センサス
農業	認定新規就農者数	6人	10人	4人	認定新規就農者数（総数）
観光	拠点施設集客数	0人	3,000人/年	3,000人/年	本計画独自に整理